

# フォレストニュース

植林が地球を救う

平成27年(2015)3月10日

No. 87

発行 高津啓洋

## 命を守る海岸減災林植樹



2015/03/08

雨交じりの冷たい潮風が砂浜を駆け上がるように横から吹き付けます。かっぱを羽織り、帽子やタオルをかぶった子どもたちが、砂の斜面を次々とシャベルで掘り返していきます。小さな苗木を植えては大人と一緒に足元を踏み固め、大きく育ててほしいと願います。

九十九里浜の東端に位置する千葉県旭

市の飯岡海岸。東日本大震災から4年の節目を控えた3月8日、海岸減災林の植樹祭が催されました。「地球の緑を守る会」からも18名が参加しました

クロマツやシロダモ、マサキ、タブノキ、ヤブツバキなど13種の木3000本を植樹しました。人々の命を守るだけでなく、復興のシンボル、さらには苦い経験を次代に語り継ぐよすがにしようとの試みは、死者・行方不明者15人という首都圏最悪の津波被害に見舞われた同市が新たな一歩を踏み出すきっかけでもありました。

潮風が強く、砂が飛散しやすいという厳しい生育環境で、木々がしっかりと根付くかは分かりません。昨年、宮脇昭先生にも現場を見ていただき、試行錯誤を重ねながらの息の長い取り組みです。

減災林の植樹が行われた千葉県旭市の飯岡海岸の目前に広がる海は4年前のあの日、7.9メートルの津波が壁のように立ち上がり、いつもとは違う黒い水の塊となって何度も押し寄せました。

2011年3月11日午後2



大滝支部長夫妻

時46分。発端となった巨大地震が三陸沖で発生したとき、「大きな津波は来ない」と油断して家に帰り、あるいは上着や貴重品を取りに帰った人々をのみこんだのは、本震から2時間40分が過ぎた午後5時26分ごろの第3波でした。

防災無線から繰り返される大津波警報。『ほんとに津波が来た』。信じられなかった。まさか、ほんとうに来るなんて、夢にも思わなかったと参加者の一人は話します。

日本政府は国土強靱化計画に、総額200兆円を掛けて取り組んでおり、旭市での植樹も国家プロジェクトの一つです。式典では明智直忠旭市長の挨拶の後、衆議院自由民主党が国土強靱化計画に取り組んでいる会長代行の挨拶・副会長ら6名の国会議員の紹介があり、国土交通省からも数人が参席。植樹指導として千葉大学大学院教授と大学院生多数が参加しておりました。旭市では植樹祭に当初500名の参加者を募集したところ、当日は600名が参加し盛大に行われました。

式典までは風雨の悪天候でしたが植樹の時は雨も止み絶好の植樹日和となりました。

植樹終了後津波タワーの見学、1703年房総沖を震源とする元禄大地震による大津波で(全国で1万人以上、九十九里浜一帯で2387名の死者)の津波塚を訪れ全体で鎮魂の祈りをささげ、その後育苗所の候補地を下見し、房総特産物展で休憩の後、無事終了しました。(大滝)

## 大槌町・植樹募集します

横浜ゴム(株)は、5月23日(土)、東日本大震災の復興支援活動の一環として岩手県上閉伊郡大槌町で第4回「平成の杜」植樹会を開催します。大槌町が復興計画のひとつに掲げた「鎮魂の森」づくりを支援するもので、2012年の開始以来毎年開催しています。今回も、私たち地球の緑を守る会も応援に出かけます。

大槌町が取り組む「鎮魂の森」づくりは、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏が東日本大震災後に提唱した「いのちを守る森の防潮堤」の構想を取り入れています。森の防潮堤は、東北地方の太平洋沿岸およそ300キロメートルにわたって防潮林を築くというもので、将来津波が発生した際の減災に貢献するものです。

